

初宮詣（お宮参り）

初宮詣（お宮参り）は、神様に赤ちゃんが無事に生まれたことを奉告し、健やかな成長と幸せを祈念する大切な儀式です。

日どりは地方により様々ですが、一般的には生後30日を過ぎた頃、男児32日目、女児33日目にお参りするのが慣わしです。
しかし、現在では日どりやしきたりにこだわらず、赤ちゃんとお母さんの体調に合わせて参拝されることをおすすめいたします。



安産祈願

安産祈願に帯祝いをします

安産祈願の具体的な内容は、帯祝いと呼ばれるご祈祷がメインです。帯祝いの日には、あらかじめ用意した腹帯とともに安産祈願のご祈祷をします。ご祈祷によって、心身ともに清らかに出産に備えられるでしょう。

安産祈願が無事終わったあとは、ご家族（ママ/パパやごきょうだいのみの場合が多い）だけでお祝い膳をいただきます。お祝い膳をいただくまでがセットとして扱われるケースが多いため、安産祈願を行う日は時間に余裕を持つことが大切です。

安産祈願は、懐妊の日から数えて5カ月目の戌の日に行います。

細かく日程が指定されていますが、実際にはその日の予定をずらせないケースもあるでしょう。5カ月目の戌の日以外にも適した日はあります。



安産祈願のお礼参りはいつする？

無事に赤ちゃんが生まれた後は、お礼参りも欠かさず行いましょう。
お礼参りでは赤ちゃんが生まれた報告を兼ねて、受け取ったお守りや腹帯を返納します。

お礼参りは産後1年以内に行うのが通例です。

しかし産後の肥立ちや真夏真冬の天候など、状況が優れない場合は様子を見た上で行いましょう。
希望すれば腹帯を返納した後にいただける神社もあります。腹帯は上質な生地できているため、神様に失礼のない方法、範囲で再利用することも考えてみましょう。

厄祓い



厄年の年齢は、人の一生の中でも、体力的、家庭環境的、或は対社会的にそれぞれ転機を迎える時でもあり、災厄が起こりやすい時期として忌み惧まれています。
その年に当たっては、神様の御加護により災厄から身を守るため、神社に参詣をして、災厄を祓う厄祓いの儀（厄除け）がおこなわれます。

2023年（令和5年）厄年早見表（女性・男性一覧）

女性 厄年			男性 厄年		
前厄	本厄	後厄	前厄	本厄	後厄
2006年 平成18年生 (18歳) いぬ	2005年 平成17年生 (19歳) とり	2004年 平成16年生 (20歳) さる	2000年 平成12年生 (24歳) たつ	1999年 平成11年生 (25歳) うさぎ	1998年 平成10年生 (26歳) とら
1992年 平成4年生 (32歳) さる	1991年 平成3年 (33歳) ひつじ	1990年 平成2年 (34歳) うま	1983年 昭和58年生 (41歳) いのしし	1982年 昭和57年生 (42歳) いぬ	1981年 昭和56年生 (43歳) とり
1988年 昭和63年生 (36歳) たつ	1987年 昭和62年生 (37歳) うさぎ	1986年 昭和61年生 (38歳) とら	1964年 昭和39年生 (60歳) たつ	1963年 昭和38年生 (61歳) うさぎ	1962年 昭和37年生 (62歳) とら
1964年 昭和39年生 (60歳) たつ	1963年 昭和38年生 (61歳) うさぎ	1962年 昭和37年生 (62歳) とら	※()内の年齢は数え年での年齢です		

御祈祷 申込先 石作神社 電話 0561-62-4020 いずれのご祈祷も初穂料6千円で承っております。